

第4回中心市街地グランドデザイン戦略会議 議事録

1 開催日時

令和2年11月6日（金）10時00分から

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

山下史守朗 小牧市長

大塚 俊幸 中部大学教授

鶴田 佳子 岐阜工業高等専門学校教授

名和 千博 小牧商工会議所地域活力向上委員会委員長

加藤 紀文 小牧にぎわい隊理事

ファシリテーター 水野 嗣則

4 欠席委員

生田 京子 名城大学教授

5 事務局

都市政策部 都市政策部長 鵜飼 達市

都市政策部 都市政策部次長 水野 隆

都市政策部 都市計画課長 永井 浩仁

都市政策部 都市計画課 都市計画係長 馬庭 貴彦

都市政策部 都市計画課 都市計画係主任 白木 裕之

都市政策部 都市計画課 都市計画係主事 立山 由希子

6 傍聴者

12名

7 会議内容

1 議題

- （1）第3回中心市街地グランドデザイン戦略会議における意見の振り返りについて
- （2）中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについて
- （3）中心市街地グランドデザイン策定方針（案）について
- （4）その他

【都市政策部長】

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただいております、都市政策部長の鶴飼でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまより、第4回中心市街地グランドデザイン戦略会議を開催させていただきます。

本日の日程につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

初めに、山下市長からご挨拶を申し上げます。

【山下市長】

改めまして、おはようございます。

大変ご多忙の中、第4回目の中心市街地グランドデザイン戦略会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりますけれども、本日無事に開催できますこと、皆様方のご協力に感謝を申し上げたいと思います。

さて、中心市街地であります、こまきこども未来館がいよいよ12月19日にオープンする予定でございます。また、来年の3月末には駅前の新図書館もオープンできる予定で今準備を進めているところであります。これまでさまざまな経緯がございましたけれども、この中心市街地の核となる施設がオープンしてまいりますので、今後、その魅力を皆さん方で地域全体、中心市街地全体に波及させていって、より一層の魅力とにぎわいのある中心市街地を形成してまいりたいと考えているところであります。

また、今、新型コロナウイルス感染症の影響で、経済的にも市内さまざまな影響が出ているところでありますけれども、特に三段ロケットで今小牧の経済の下支えをしているところであります。

既に終わりましたけれども、10月の1カ月間はキャッシュレスポイントの還元事業を行いまして、今、第2弾として、11月1日からこまき応援食事券事業を開始しているところであります。さらに、第3弾として、12月から来年5月までこまきプレミアム商品券事業、毎年行っておりますけれども、プレミアム率を30%に増額した、頑張る小牧の応援券としてプレミアム商品券事業を行っていく予定であります。なかなか困難な状況でありますけれども、将来を見据えてしっかりと進めていきたいと思っております。

本日は、これまでの戦略会議の締めくくりとして、中心市街地グランドデザインの策定方針（案）などについてご議論をいただき、一定の方向性を見いだすことができればと思っているところであります。

どうか委員の皆様方には、それぞれ忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

それでは、次第の2、議題に移ります。

以後の進行につきましては、ファシリテーターをお務めいただいております、水野嗣則様にお願いしたいと思っております。水野様、よろしくお願いいたします。

【水野ファシリテーター】

それでは、進行役を務めさせていただきます。

この戦略会議は今回で締めくくりとなることとなっておりますので、ご協力のほうよろしくお願い申し上げます。

初めに、議題（１）「第３回中心市街地グランドデザイン戦略会議における意見の振り返りについて」及び議題（２）「中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについて」を一括議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

【都市計画課長】

議題（１）（２）につきまして、一括で説明させていただきます。

初めに、議題（１）「第３回中心市街地グランドデザイン戦略会議における意見の振り返りについて」であります。

お手元の資料２をお願いいたします。

左側に各委員の主なご意見を掲載し、右側に定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒト、方向性のカテゴリーを記載し、各委員のご意見が該当すると思われるものに丸付き数字を記載しております。

全てのご意見の詳細は省略させていただきますが、主なものとしたしましては、ニーズに合わせたまちづくりの必要があるのでターゲットを具体的に設定したほうがよい、まちづくりの方向性に歴史・文化を感じさせる表現があるとよい、活気ということであれば小牧市としての都市の顔が表現できるとよい、もう少し広い議論をする会議体にしていくことも必要ではないか、歩道をもう少し整備して楽しく歩けるシンボルロードにできるとよい、前回資料の方向性１の「にぎわい」と方向性３の「活気」がわかりにくい、などのご意見がありました。

続きまして、議題（２）「中心市街地グランドデザイン戦略会議のまとめについて」であります。

おさらいとなりますが、本戦略会議につきましては、魅力と活力のある中心市街地の将来像を検討するために必要な議論を行うことを趣旨としておりますので、具体的なグランドデザインの計画そのものを決定するのではなく、グランドデザイン策定の方針につきまして、次のステップにつなげられるような、さまざまな知見をいただくものであります。

資料３をお願いします。これまでのまとめであります。

１．まちづくりの方向性であります。この表は、前回いただきましたご意見を踏まえて一部修正を行ったものであります。

表の中では、委員の皆様のご意見を、できるとイイね、という表現で視点別に整理するとともに、右側にお示しするとおり、まちづくりの方向性を、「訪れたいまち」、「住みたいまち」、「活力があるまち」とするものであります。

「訪れたいまち」では、まちの魅力があふれ、居心地がよく、歩いて楽しいまちなかを目指す。

「住みたいまち」では、都市機能や生活利便性の高い施設が集積し、快適に暮らせるまちなかを目指す。

「活力があるまち」では、空き店舗のリノベーションや起業応援など、活性化を担うヒトがチャレンジしやすい取り組みを進め、官民連携による飲食・物販・サービスなどの集積と持続可能なまちなかを目指す、とするものであります。

次に、ページをはねていただきまして、２．まちづくりの施策であります。先ほど整理した意見

を踏まえ、施策展開を視野に入れ、3つの方向性ごとに、できるとよい項目をピックアップしたものととなります。

まず、方向性（１）「訪れたいまち」では、できるとよいこととして、①から⑤までを整理しました。

次に、方向性（２）「住みたいまち」では、できるとよいこととして、⑥から⑨までを整理しました。

最後に、方向性（３）「活力があるまち」では、できるとよいこととして、⑩及び⑪を整理しました。

ページの右側をお願いします。

本市中心市街地につきましては、ゾーンにより特性が異なるため、先ほどページ左側に記載する①から⑫のでできるとよいことを、それぞれのゾーンごとに該当するものを落とし込んでおります。

「都市機能集積ゾーン」や「歴史・文化ゾーン」において、それぞれの特性に合わせて、今後の具体的な施策展開につなげることができればと考えるものであります。

以上、議題（１）、（２）についての説明とさせていただきます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいま、事務局より議題（１）と議題（２）について説明がありました。すなわち、前回会議の振り返りと、これまでの戦略会議のまとめとなっております。

第３回から一部修正していただいた箇所もございますけれども、委員の皆様からご意見等ございませんでしょうか。よろしくお願いいたします。

【山下市長】

先ほど事務局から説明がなかったですが、前回の振り返りの中で、資料２でいろいろと委員の皆さん方からのご意見がありまして、私もその中で意見を言っているんですけども、方向性の表現がなかなか分かりにくいねという話がありました。私も、１のにぎわいと３の活気というのはどう違うんだという話もしたんですけども、それで今回、まちづくりの方向性について表現を省いている形になっています。訪れたい、住みたい、活力があると、こういう表現にとりあえずはとどめているという状況です。そのあたり、これは表現の問題なので、何かまた皆さんからいいアイデアがあればいただくといいかなと思います。とりあえず今回シンプルに修正がされているというところであります。

あとは、本当にいろんなご意見をいろんな角度からこれまでいただいてまいりましたので、そのあたりを盛り込んで、今事務局で資料２、３ということでまとめておりますので、こういうものについて具体的にイメージして、少しずつ今見えてきたかなと思うんですけども、さらにこれを確認しながら、具体化が図れる形でいろんなアイデアをまた今日いただけるといいなと思っております。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。その他、ご意見ございますか。

【大塚委員】

前回のこの会議で、現図書館の土地をどう活用していくかについて、いろいろ議論というか意見が出たと思います。このまとめの中には現図書館について触れられていないような気がしますが、そのあたりは何か意図があつてのことでしょうか。結構大事なところだと思うので、何かそういう文言があつてもいいのかなとは思ったのですが、いかがでしょうか。

【山下市長】

大塚委員おっしゃるように、私も今確認をして、現図書館の議論、確かに前回までいろいろとご意見がありました。そういった中で表記がないなというのは、そのとおりだなと思います。

特に私のほうで資料作成に当たって指示をしたわけではないんですけれども、恐らく、現図書館の利活用の方向、あり方の方向性ということについてはここの戦略会議の中でも議論が分かれている部分だと思います。これから市としてもどういうふうに生かしていくのか、活用していくのか、あるいは、周辺の環境と合わせていわゆる商業開発、あるいは公的な利用、あるいは閑静な住宅街の中での今後のあり方、いろんな方向性がまだ見えていないところがあります。確かに重要な論点だというのはそのとおりでありますから、議論がこの戦略会議であつたということについては、次に送っていかなくちゃいけないとは思いますが、ここの中にどのように表現すればいいかということについてはなかなか、多分事務局としてもまだ決まっていない方向性だなということの中で難しかったのかなと思います。

それを踏まえて、もし今後、次につなげるために何かしら記載するのであれば、どうしたらいいかということも併せてまたご意見いただければいいかなと思います。

【大塚委員】

ありがとうございます。よくわかりました。

今日のこの資料はできるといいことという視点から整理されているので、現図書館の議論はあつても、そのあり方自体が中心市街地にとっては大きなインパクトのある重要なことであるという認識はこの会議で共有はされたが、こういうふうにできるといいねという具体的な方向性を示すところまでには至っていないので、まだここには載せ切れていないということですね。

【山下市長】

はい。

【大塚委員】

わかりました。

【山下市長】

それを踏まえて、多分いろんなご意見があるんだろうと思います。

【水野ファシリテーター】

その他、ご意見等ございますか。

【鶴田委員】

前回、山下市長と同じく、にぎわい、活気の創出とつながる場とか、方向性1と3が、分かりにくいんじゃないですかというお話をしたんですけど、今回資料3を見せていただいて、そのあたりは分かりやすくなったのかなという印象です。やっぱり一番難しいのは、居住者の話と商業の話と観光の話の3つが入り混じっているところで、それを結構分かりやすく整理されたかなと思っています。訪れたいまちのところに当然定住が入るんですけど、ここの訪れたいまちと定住のこのマトリックスに入ってくるのは恐らく移住だと思うんですね。ですので、まず移住してきてもらうために魅力的なまちである、訪れるのは、観光で訪れる人もあるし、初めて住みたいなと思う人もあると思うので、ここは移住・定住というふうに思うと分かりやすいのかなと思います。

それから、質問なんですけど、表の中にアンダーラインを引いて黒く塗り潰してあるのは前回の意見で追加されたものと思えばいいんでしょうか。

【都市計画課長】

事務局からお答えさせていただきます。

この資料3の中でアンダーラインが引いてございます意見につきましては、資料3の別紙で、2のまちづくりの施策のところのできるといいことの中に書いてあるものとなっています。特にこれは次でも生かされる記載をしている意見だよということで、アンダーラインを引いて強調させていただいているということになっています。

以上です。

【鶴田委員】

わかりました。

でも、例えば、空間の訪れたいまちのところの小牧山云々というのは後ろにも出てきていますよね。小牧山の見える景観というのは、次の資料3の2枚目、2のまちづくり施策の⑨に出ていると思うんですけど、今のご説明だとちょっと違う気もしますが、大丈夫ですか。

【都市計画課長】

ご指摘のとおり、アンダーラインを引いていないところは申しわけございませんでした。

【山下市長】

意図としては、先ほどの説明のとおりだということです。アンダーラインが抜けている項目があるということですので、これは確認しておきたいと思います。

【水野ファシリテーター】

その他、ご意見等ございましたらお願いいたします。

【鶴田委員】

前回も、新型コロナウイルス感染症の関係で、今後それがまちづくりにどう関係していくのかというお話が出たんですが、今回はその言葉がこの中にはないように思います。

実は、国交省が今年度8月に新型コロナウイルスを契機としたまちづくりの方向性の論点整理と

いうのをされていて、ここの中を見ると、例えばウォーカブルなまちとか、グリーンインフラとか、今まで使っていた言葉ももちろんその中に入っていて、今回出されたこの施策の中にも結構その要素が散りばめられているので、無理して入れる必要はないですけども。

ただ、やっぱり人々の生活様式が変わっていく中で、中心市街地であっても密にならないとか、グリーンがあり、インフラがあり、それから歩きやすいまちにして人々がもっと地域の中で活動するようになるというスタンスのことが書かれているんですけど、そう考えると、十分コロナ対策というか、コロナも見越したまちづくりみたいなことも入れていけるような気がします。いろんな都市マスの改訂とかも関わらせていただいていますけど、みんな大体コロナのことも踏まえる中での改訂で、プランの中にも書かれているので、タイミング的にそういうことも前向きにというか、取り込めるものは取り込みながら将来を見据えられたらいいんじゃないかなというのは全体を通して思いました。

【山下市長】

感染症に強いまちですか。具体的には例えばどんなイメージですか。

【鶴田委員】

私も隅々まで読んだわけではないですし、論点整理も、主に関東方面の研究者とか、そういう方々30人ぐらいからヒアリングして国交省がまとめているだけなので、別にこうしなさいとかいう解決策が出ているわけではないです。

例えば、オンラインでいろんなことがやれるようになって、やっぱりリアルが絶対に補わなきゃいけない。特に会議とかそういう打合せとかはやっぱりできないよねということもだんだん分かってきて、そうするとリアルができる場を何か整備するとか、あるいは生活スタイルがもうテレワークになっていって、人々は自分の住んでいるまちのところで活動するようになると、その周辺でウォーカブルに楽しく人々が集えるようなふうにしたほうがいいとか。あと、やっぱりグリーンインフラをもって密度を下げるとかいったことなので。

でもコンパクトシティ云々の話の中で、やはり都市のスポンジ化という話があるんですけども、結局、縮退していても同心円状に縮退してくるわけではなくて、スポンジ化になっていきます。それをどうするかという話になったときに、そのスポンジ化した土地をいかに有効活用するかということ、もともと日本はすごく過密に住み過ぎているので、例えば欧米とかですと都心のまちなかであっても菜園住宅というものがあったりして、人々の居住空間の質を高めるという意味でグリーンを使ったりとか密度を下げるということを考えるとすると、コンパクトシティの今までの流れとそんなに外れるものではないとも思ったりします。

とにかくコンパクトにして密にというイメージではなくて、イメージが少し変わる部分はあるかもしれませんが、全体のやり方はそんなに変わらずに、ただ、まちづくりを考えていく思考の中にそういうことを入れることが大事ということだと思います。そういうある程度密を避けるような空間計画にしておけば、皆さんそこに来て大丈夫ですよという話に逆になりますよね、恐らく。そのように考えるのですが、これもまだ論点整理の段階なので、こうしたらいいかってというのはありません。まだこういう視点でまちを考えていったらいいんじゃないかというレベルだと思って読んでいます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

【名和委員】

ただいまの意見、確かに今の時期としてはごもっともかなというふうに思います。

私、過去さまざまな組織に所属してしまして、そこでは交流畑というのを主にやっております。そして、仕事は商業なんです。どちらもワードは密なんです。人が集って初めて成り立つというところなんです。

空間も、もちろん今おっしゃられたように、今の時期のことを考えると、密というのを避けることによって危険を少し遠ざけるという意味合いはあるのかもしれませんが、やっぱり活気だとかそういうことを考えると、ある程度の密というのは考えなきゃいけないと思うんですね。

そこで出てきますのが、現在騒がれておるコロナということです。そのコロナというのを今の一過性のものと捉えるのか、もしくはこの先ずっとこういったことがあるといけないよねということで捉えるのかで、多分展開って大きく変わってくると思います。したがって、そのあたり、一過性のものか継続性のものなのかというのをきちっと整理しないと、中途半端な今だけの施策になってしまうような気がしましたので、一言申し上げさせていただきました。

【山下市長】

一過性なのか継続していくのかということはなかなか難しいところで、多分誰も確かな答えを言えないと思うんですけども、今の状況ですとある程度これは続きますよね。ですから、鶴田委員がおっしゃったように、ある程度これはまちづくりの中に取り入れて、コロナでオンライン化とかデジタル化というのはかなり飛躍的にというか、早い段階で進んだというのがありますので、そういうことに対応するリモートワークですとか、今日のニュースだったかで見たのが、浜松市かどこかに、リモートオフィスの場所がなかなか見つからないからといって、車を公園に止めてそこをリモートオフィスにするというパークを来年オープンするとかいうニュースを見ましたが、ウィズコロナの中で新たなそういった方向性は少しずつ出ているなというのはありますよね。

もとより、そういう方向性は少しずつあったと思うんですけども、コロナでかなり進んだということがあって、そういったことに対応したまちづくりという視点は、例えばコワーキングスペースだとか、そういった新たな働き方というものはいろんなところで議論が出ていますし、中心市街地の中にそういったことを念頭に置いたようなことも必要なのかなというのは私も思いますが、具体的にどうというのは。

例えば、先ほど鶴田委員がおっしゃったように、スポンジ化した穴をもしグリーンで埋めようとすると、その空いた土地を公共が買い上げるという方向性になるんでしょうか。なかなか民間で土地活用としては難しいと思うんですね。

あと、名和委員がおっしゃったような、ある程度密を目指している中心市街地みたいなところがあるので、このあたりはやっぱり論点ですよね。閑散としているのにぎわっているように見えないので、ごちゃごちゃしているとは言いませんけど、ある程度密だから活気があるように見えるというところもありますし、やっぱり目指す方向性、今日出す方向なんですけど、そのあたりが今2つ軸がある感じがします。整理はしなきゃいけないかなという感じはします。

雑感ですみません。

【鶴田委員】

一過性のものかもしれないので、無理して入れようとするのは今のこの状況に非常に翻弄されている感じになってしまうのですが、コンパクトシティを考える上で、都市機能誘導区域に指定されているこの場所のこの整備方針を見たときにマッチングしてくるものがあると思ったので、コンパクトシティの流れに沿うものは取り入れていけばいいのかなと思います。

スポンジ化した土地については、土地を動かすのは非常に難しいと思います。これは中心市街地の例ではなく、郊外の住宅、もう少し田舎のほうの土地だと思うんですが、例えば隣地、すごく狭い敷地に住んでいる人が隣の土地を借りるか買い上げて自分の敷地を広くして二世帯住宅にするとか、あるいは菜園を作るとか、そういう取組みがあるという研究論文は読んだことがあります。大々的にどうというのはなかなか難しく、やっぱり空き家とか空き地とかいうのは、一戸一戸どうしていくのかという話にはなるとは思います。でもそれを全部市が買い上げてとかは難しいとは思いますが、その動きをしやすくするように補助金を出すとかいうことはあるのかなとは思いますが。

でも、それは多分どこの自治体も同じで、ぼつぼつ空いてくるものをどうしようという悩みを抱えていて、それぞれがいろんな空き家をマークしたりとかはしていると思いますけれども。

【名和委員】

こういった目標だとか将来のデザインに織り込まなきゃいけない一番って、やっぱり夢も織り込んでいかなきゃいけないと思うんですよね。前回、私、コロナの影響で世の中が大きく変わってしまった、商業のあり方も大きく変わってしまったというのを申し上げておりながら、夢を織り込んでいかなきゃいけないという前提であるならば、コロナだからこういうふうにしなきゃいけないというのは、一過性のものの文言というのはやっぱり避けたほうがいいのかなと思います。

なぜなら、例えば、ある男女が会って結婚していく。結婚してこんな家庭にしたいよねという話をしていく中で、ソーシャルディスタンスを保ってどうたらこうたらってまず言わないですよね。やっぱり夢を語って、それを計画に落とし込んでいく。こんな家庭にしたいよね、ああいうふうにしたいよねっていうふうに多分すると思います。であれば、こういったグランドデザインの中でも、やはりそういうような不確定的な要素を取り込むことも必要ですけれども、それを意識しながら夢を織り込んで、こんな素敵なまちにしたいよね、こんな素敵な家庭にしたいよねって、そういうことをやっぱり表現するべきなのかなと、私個人的には思いました。

【山下市長】

密か密じゃないかということとはちょっと距離があるんですけど、今の議論というのは決して水と油みたいな議論じゃないので、新型コロナウイルスがこういう状況ですけど、そういった時代にも対応できるような、先ほどのリモートオフィスの話だとかデジタル化の話だとかっていうのは、やっぱりこれはまず続いていくし、さらに加速していくので、そういう大きくかなり進んだ時代背景も見据えて、対応できるまちづくりという視点は持つておかなきゃいけないかなというのは私も同感です。それが一過性に、ディスタンスするための施設とかいうのは確かにちょっと違うかなと思います。このあたりはよく理解できる話で、どちらもそのとおりだなという感じだと思います。

今日の話は基本的には、多分いろんなご意見が出た、どちらかというと最小公倍数的な、皆さん

が大体方向性が一致しているような内容ができるとイイねという形で書かれているんだろうなと。先ほど大塚委員から現図書の跡地の話もありましたけれども、恐らく方向性が大体出ているところが、皆さん異論がないようなところが書かれているのかなと思います。いや、これちょっと方向性違うよとか、もっとこれ、こういうことも言ってるから盛り込んだほうがいいよとかいったことがあれば、そのあたりもご指摘いただけるといいのかなと思います。多分この資料は、最小公倍数的にまとめてあるので、もうちょっとこれ入れたほうがいいよということがもしかしたらあるのかもしれないし。一応今日とりあえず締めということなので、皆さんの漏れなく忌憚のないご意見をいただきたいなと思います。

【大塚委員】

そこに行く前に、これまでの皆さんの話に関してちょっと発言をさせていただきたいです。

まず、名和委員がおっしゃられたのは、私もそのように思います。大学でも、今アフターコロナの大学教育をどうしていくかを一生懸命考えています。このコロナによって我々はいろいろなことを経験し、これからも使えることを身につけて、それを今後どう大学の教育に生かしていくのかを今考えているわけです。ですから、まちづくりにおいても、コロナで経験したことをこれからのまちづくりにいかに生かしていくのかを前向きに考えていく姿勢が必要ではないかというのがまず1点。

それと、その前の鶴田委員がおっしゃられたスポンジ化でまちの中をどう再編していくのかというところで、国交省のほうで低未利用土地権利設定等促進計画というのを用意していますよね。そういうかなりミクロなスケールで土地の入れ替えをしながら、よりよい市街地を作っていくという制度なんかも活用の余地があるのかどうかも検討していただきたいです。うまく空いたところを動かしながらやっていけるか。

それをやるには、実はかなり地域住民の合意が前提となるので、自分たちのまちをどうしていきたいかを考え、そのために、その空いた土地の利用の仕方として何が一番妥当なのかということで仕分けをしていく必要があります。ここは市場に任せておいても活用されていくところはそうすればいいし、これはもう少し公的な利用の仕方、例えば地域の住民が共同で利用する場所として使いたいということであればそういう使い道をすればいい。そして、そういうことも適当ではないというところは自然に戻していくことになるだろう。多分そういう仕分けをしながら、高密度の必要があるところと低密度なところを再編していくことになる。地域住民が主体となって、自分たちにとってどういう利用の仕方がいいのかを考えて、それで市街地を再編していくことがこれからは求められているのではないかと。そこら辺の国の制度の活用の可能性なども検討されてはどうかと思います。

以上です。

【山下市長】

今大塚委員がおっしゃったところがまさに一番大事なところかなと。実務的に市政を進める中で中心市街地をどうするといったときに、まさにそこが実務的に非常に難しいところで、一番大事なところかなと思っています。

ここに描いているような中心市街地の方向性でいこうとすると、もう少し高度利用が必要なんです。要は、区画をずっと見ていますけれども、昔からずっと住んでてお店をやって、お店を閉

めても住んでてというような中で、なかなか高度利用が図られない、まとまらない。じゃあ、以前のように再開発事業だといって市が全部買収しながら再開発していくという手法は、今の段階ではなかなかこれは使いづらいということがあるので、これはとても踏み出せないと思うんですね。

実際の権利者の皆さん方の意向の中で、個別にということよりは、やっぱりどこかで一定の合意形成を図りながら、一団の土地の中で再開発をしていくということがどこかで必要だとは思いますが、すけれども、いかんせん人様の土地なので、市がそこに何か上から色を塗るというのなかなか難しい部分です。でも、ある程度その方向性の中で関わっていかなくちゃいけない、示せるところは示していかなくちゃいけないということを思うときに、まさにこういう戦略会議の中で、今日ここに実際の中心市街地の地図が資料4にあります、ちょっと見にくいので本当はもう少し大きな地図で、具体的なブロックがわかるのが本当は手元にななくちゃいけないとは思いますが、そういう中で必要なですね。

例えば、今開発しているのはA街区、新図書館の建設を進めていますけれども、B街区というのが再開発ビルのラピオがあるところで、随分昔の都市計画ではA、B、C、D、Eぐらいまでブロックがあってそれぞれどうするというのがあったんですけれども、それは道半ばで再開発はストップして、A街区も駐車場暫定利用ということの中で長年来てしまったということで、それを再び動き出させようということで今ラピオの再生と新図書館の建設をやっているわけです。

A街区とB街区のこの周辺ですよ、これまでの歴史的な経緯の中でまだまだ低利用が続いているという状況の中で、今おっしゃったようなスポンジ化も含めて、ぽつぽつとなっていて。少し動いたのは、マックスバリュのあるところは、昔のサワムラヤさんがあったところは、かなり一団の土地になってきています。今後どういうふうかというのはわかりませんが、今マックスバリュさんがやられているところはかなり変わりましたよね。

今後、民間の土地を含めて、ある程度高度利用して新しいまちに、さらに魅力的にということの方向性がどうしても必要だと思うので、そこをなかなか行政としては難しいなというところがあります。大塚委員がおっしゃったように、そういったいろんな手法を検討しながら、どうしていけばいいんだというところがまさに一つの肝ですけれども、それはもっと具体的にご教示いただけると非常にありがたいなというところです。

せっかくの機会なので、ご協力いただけるのであれば、まさにそのポイントをもう少し議論を進めるべきかなということは思っています。ぜひお願いしたいなと思っています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。そのほかに、ご意見は。

【加藤委員】

資料3のまちづくりの施策を見ていると、ああこういうふうになっていくといいなという、非常にいい方向性を感じていたんですね。これが、我々にぎわい隊がやっていた1カ所でイベントをやるとかということじゃなくて、このまちの中でいろんなことが行われそう、やることができそうだなといういろんないいことが書かれてて。

我々、人も集めちゃいかんようなことを言われてもう1年間イベントをやれずにいたんですけれども、ほかの市町なんかのイベントのやり方、分散型のイベントだとか、ちょっとまちを歩きながらというイベントとか、そういうのをいろいろ参考にしながら、今度3月にやろうということで今

イベントを計画しています。

ちょうど新図書館もできますし、桜の咲く頃で小牧山の桜もきれいなときだから、そういう3月末ごろにイベントをやるかということで今決めているんですけども、1カ所に人を集めるんじゃないくて、新図書館の北側の歩道とかラピオの角だとか、旧図書館の駐車場だとか、いろんなところでいろんなことをやります。また、今言っていた空き店舗を、長期に貸すのはまだ嫌だなと思っている方でも、1週間ぐらいだったら貸してあげるよとか、そういうまちの意見を少しずつ聞きながら、こういうことだったらまちづくりに協力してもいいなと思っている一軒一軒のオーナーさんにもうちょっと膝詰めで一つずつ意見を聞きながら、こういうことで協力してくれということの一つ一つ我々が拾って行って、それをやってみる。やってみると、こんなおもしろいことだったら次もやりたいなというのをだんだんつなげていけないかなということで今行動しかけようとしています。

新しいイベントのやり方、ただそのときに一極に人を集めるんじゃないくて、ちょっと持続性を持った、少ない人でもいいからいいなというのが広がっていけるような次のまちづくりのあり方を考えていきたいなと思っていますので、このまちづくりの施策がどんどん進められるといいなと思っています。

【大塚委員】

加藤委員からはイベントのお話があったので、それについて教えてください。

中心市街地の伝統的な祭りというのは、どのようなものがあるのでしょうか。気になっているのは、この通りに神明社の倉庫がありますが、あそこの中に何が入っているのかが気になっています。あそこをガラス張りにして見せることができるようなものが入っているのかどうかというところをお教えいただければと思います。

【加藤委員】

神明社の横のあおぞら児童遊園というところに山車倉庫がありまして、あそこに山車が5両あります。秋葉祭に使うのが4両。秋葉祭というのは、8月のお盆過ぎた次の土日にやるのですが、それが4両あります。各町が持っていて、各町の単位で、町内で引きます。もう一つは舞台がついている山車で、それは4月に神明社のお祭りがあるので、そこで子ども歌舞伎とかがやれるようになっています。4両のやつは一個ずつが人形からくりがついていて、それが奉納されるということであります。からくりだけを展示したりするような事業も山車保存会でやっているのです、そういうこともうまく組み合わせてやっていこうと思うと、10月に市民まつりもありますので、そのときからくりの展示もやったりします。

【大塚委員】

今、あの倉庫の中には分解されて保存されているのですか。

【加藤委員】

そうですね。

市長のほう詳しいかと思います。

【山下市長】

地元だからなのですが、山車が市の指定有形民俗文化財になっています。

【大塚委員】

その山車自体が、組み立てられた状態で、通りを通っていく人から見えるようにすることはできるのでしょうか。

【山下市長】

これ、昔は全部分解していたらしいんですけど、それは大変なので、山車はそれぞれ骨組みで入っています。人形を載せて幕をつけるのですが、幕はやっぱり日焼けしたりとかほこりかぶったりするので、祭りごとで全て外して畳んで、人形とかはもちろん箱に入れて保存して、骨組みだけになっています。

大塚委員おっしゃるように、ほかのまちでそういった山車を展示するという施設もありますよね。こういうご意見は今までも結構いただいていて、図書館の中に1両ぐらい飾ったらどうか、そういうご意見も今までもありました。それは一つのアイデアかなと思うんですけども、展示するに当たっては、例えばガラス張りでというのは、4つ多分すごい高くなる。例えば1つだけでも思ったときには、幕を張ってそのまま置いておくというのが、どこまで傷むのか傷まないのか、特に紫外線対策とかはしっかりやらなきゃいけないだろうと、日焼けしちゃうのかというのがあります。そのあたり、技術的にはわかりませんが、中に入っているものは、大塚委員おっしゃるように、江戸時代からずっと続いている祭りですので、本当は見てもらいたいもの、文化的に非常に価値のあるものだと思います。

【大塚委員】

歩いていて、祭りの雰囲気が感じられるような仕掛けがあるといいかなというぐらいで、お金もかかるし、管理が大変なので、ガラス張りがいいというふうに思っているわけではありません。何かそういう雰囲気づくりがあるといいなということです。

【山下市長】

中心市街地の伝統的なお祭りというのは、この小牧のまちが広がっていった15万都市になっていく中で、新しい方も非常に多いですし、あまり実は知られていない、思った以上に知られていないという感じがしています。

昨年、令和に替わって令和夏まつりというのをやりまして、そこでこれまでの伝統的な祭りとコラボというか、同じ日にやったので、あそこで初めてこういう祭りがあると知ったという方々が結構多かったように聞いています。今年は夏まつりができませんでしたし、来年以降もできるのかどうかわかりませんが、そのような状況です。

あと、中心市街地に限らず、伝統的な祭り結構、棒の手だとかいろいろありますし、それはまた別の機会に。だけど、今大塚委員がおっしゃったのは、祭りの時期だけじゃなくて、普段からそういった文化とか歴史・伝統が感じられるような街並み、景観とかそういうことでしょうか。仕掛けでしょうか。どういうことですか。

【大塚委員】

見た目で感じられるようなということです。

【山下市長】

まちの街路ということでしょうか。

【大塚委員】

今あそこの倉庫の壁面がどのようなになっているかわかりませんが、それこそ写真や絵で山車を描くとかいう視覚的なこともあるでしょうし、あと、ソフトなことでは、大抵は祭りというと、神事だからよそ者には手を出させないところがあるかもわかりませんが、最近は考え方も変わってきているので、観光客にも参加してもらったりしていくとか、いろいろな面で伝統的な祭りというのを生かしていけるのではないかなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

その他、皆様から、この今の戦略会議のまとめのところについてご意見ありませんか。

【大塚委員】

2枚目のところで、できるとイイことというので①～⑫が挙げられていて、できることからやっていくという考え方もあると思います。しかし、やはり全体的に、いろいろな事業、施策をどういうスケジュールでどういう順番でやっていくのか、これをやるのが次にどうつながっていくのか、そして最終的に自分たちの目標にどのようにつながっていくのか、一個一個のやることの意味自体をちゃんと理解した上でやっていくことが重要ではないかと思います。この羅列をもう少し、それぞれの施策、事業の関連性もわかるような形で整理していくことが必要ではないかと思います。例えば、すぐにできると誰も人が通らない歩道にベンチを置いて、置いたけれどもこれどうなのかということがあります。この中でやってくださいということではないのですが、今後実際にそういう計画を立てて実践していくことになった場合には、全体のストーリーの中で一個一個の事業をやっていくという整理の仕方が必要になってくると思います。

以上です。

【水野ファシリテーター】

時間の概念もここの中へ取り込んでいったほうがいだろうと。

【大塚委員】

そうですね。それぞれの施策の関係性を考えて全体のストーリーを作った上で一個一個やっていると、やっていること自体が、何のためにやっているのかというのが見えてこないとなかなかモチベーションにもつながらないのではないかと思います。

【山下市長】

いい意見だと思いますし、そのとおりです。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、まとめについてご意見等ございますか。

それでは、ほかにご意見がないようであれば、議題を進めさせていただきます。

続きまして、本日の議題の（３）中心市街地グランドデザイン策定方針（案）についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

【都市計画課長】

議題（３）「中心市街地グランドデザイン策定方針（案）について」であります。資料４をご覧ください。

これまでの会議における議論を踏まえ、今後策定を進める中心市街地グランドデザインの策定の方針案となります。

１「中心市街地の現状と特性」であります。

ここでは、昨年「れきしるこまき」がオープンし、現在、駅前広場等の再整備、小牧市中央図書館、こまきこども未来館の整備を進めていること。また、小牧駅周辺に商業機能と多世代交流機能が集約している一方で、小牧山に近くなるにつれて歴史・文化的資源が多く見られ、歴史薫る落ち着いた景観が広がる特性であることなどを記載しております。

ページの右側をお願いします。２「中心市街地グランドデザインの策定背景」であります。

本市では、2017年３月に立地適正化計画、2020年２月に都市計画マスタープランを策定しました。

小牧駅周辺については、駅前広場等の再整備に取り組むなどして、魅力とにぎわいのある中心市街地を創出することとしています。近年は空き店舗数の増加など、中心市街地の活力の低下が課題となっています。

今後は、小牧駅周辺のにぎわいが、地域資源である小牧山までの間でつながり、将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を目指すため、（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）を策定し、フィールドビジョンを描こうとするものであります。

なお、計画の名称を中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）とするのは、ソフト・ハードの両面で包括的に取り組み、活性化につなげる計画とするためであります。

続きまして、３「位置づけ」であります。

記載のとおり、市の最上位計画であります、「小牧市まちづくり推進計画 第１次基本計画」や「小牧市地域ブランド戦略」、「第２期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に即すとともに、「小牧市都市計画マスタープラン」、「小牧市立地適正化計画」などの関連計画と連携を図るものであります。

ページをはねていただきまして、４「策定体制」であります。

１、グランドデザイン策定のための取り組み体制といたしまして、（１）策定部門では、①市長は、計画の原案を提示します。そして、②（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）策定審議会では、市長から提示された計画案に対し助言・提案を行います。

(2) 都市景観審議会や都市計画審議会へも状況報告し、ご意見をいただきます。

(3) 市議会との情報共有としまして、適宜状況報告をいたします。

(4) パブリックコメントを実施します。

下段に、体制のイメージ図を記載しております。

なお、緑色の枠で記載しております（仮称）中心市街地活性化基本計画策定審議会につきましては、計画策定を目的として今後新たに組織するもので、現時点では未定であります。本戦略会議の委員をはじめ市民や各方面の方々から幅広く委員をお願いしてまいりたいと考えております。

ページの右側をお願いします。5「計画の推進」であります。

将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を形成するためには、行政だけでなく、さまざまな活動主体やまちづくりの担い手、いわゆるまちづくりプレイヤーの参加が必要になります。

それぞれが連携・協働して課題を解決していく必要があります。

また、計画の推進のためには、各施策の実施状況について、点検・評価を行う必要があることから、表に指標例がありますとおり、指標を設定することで進捗状況を定期的に把握することとします。

さらに、地域住民や商工会議所などから成る「（仮称）中心市街地まちづくり協議会」を別途新たに組織し、PDCA サイクルに基づいた計画の進行管理と事業の改善を行います。

こうして、さまざまなプレイヤーが、できるといねに参加する取り組みにつなげられればと考えるものであります。

以上、議題（3）の説明とさせていただきます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいま、事務局より資料4についての説明がございました。

中心市街地グランドデザインの策定方針（案）について、ご意見等はございますでしょうか。よろしくをお願いします。

【鶴田委員】

資料4の3番目の位置づけのところがちょっと気になります。

2のところで、都市計画マスタープランと立地適正化計画の中でこのエリアが中心市街地というふうに位置づけられているとすると、関連計画のほうに都市計画マスタープランをまとめられていますが、上位計画に当たるんじゃないでしょうか。例えば、公共交通網形成計画とか景観基本計画も恐らく都市マスに従ってプランニングされているものだと思うので、立地適正化計画は迷いますが、都市マスは上位計画に入っているもののような気がします、いかがでしょうか。

【都市計画課長】

確かに、おっしゃられるとおり都市マスは都市計画の中では上位計画に当たるものだと考えられますので、資料につきましては修正する方向で検討させていただきたいと思えます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、ご意見等あればお願いいたします。

【大塚委員】

意見というか、質問です。

あっそうだったんだと思ったのが、小牧市は中心市街地活性化基本計画を策定されてなかったのですか。

【山下市長】

以前はありました。

【大塚委員】

そういうことですね。

では、策定委員会じゃなくて審議会にされたのは、どういう狙いというか意図があつてかを確認させていただきたいです。

【水野ファシリテーター】

審議会とした意図は何かということでございますか。

市長、いかがでございますか。

【山下市長】

大塚委員がおっしゃる委員会というのは、要するに、原案を策定するに当たってまさにこの戦略会議の続きのような形で作り上げていくという、そういうイメージのやり方もあるじゃないかという話ですか。

【大塚委員】

要するに、委員会と審議会では、その会議体と自治体との関係が若干違ったりするのかなということです。審議会というのは、市が用意したものに対して意見を述べる形にされるということです。

【山下市長】

大塚委員のおっしゃる委員会というのはどういうイメージですか。

【大塚委員】

委員会というのは、委員会主体で、委員会で策定したものを市に提出して、それを実施してもらうというか、どちらかという委員会組織のほうに主導権があるようなイメージを持っています。

【山下市長】

どちらがいいということはないと思うんですが、私の立場からはっきり言えるのは、我々、例えば昔の総合計画ですよ、今は小牧市まちづくり推進計画と言っていますが、その策定に当たってもいろんな議論があつたところなんですが、結局責任の明確化ということの中で、誰が責任

を持って作ったかわからない計画ではだめだという議論がこれまで相当ありました。ですから、当然市長が責任を持って策定するということがあるので、市長のもとで策定するというのは本来の形ではないかなと思います。ですから、委員会の中でいろんなご意見をいただきながら最終的には決定していくということなので、この形は基本的には原則に沿った形なのかなと。審議会形式というのはそういうには思っています。結局、委員会策定だと、誰が作ったんだということになる懸念は常に持っているということはありません。

どちらがいかどうかはいろんなご意見があるでしょうけれども、いずれにしても、いろんな人の意見を聞きながら策定していく体制が当然必要で、むしろ実行段階においては、まさにプレーヤーを策定段階から巻き込みながらやっていくということが必要なので、そういう意味では入っていただきたいということだと思っただけですね。

これは事務局の案で私もチェックできていないんですけど、策定に当たって、ワークショップだとかも含めて、もう少しキャッチボールができるようなやり方も考えたほうがいいんじゃないかなとは思っています。今の段階で原案と言ってもなかなか、ここの戦略会議のまさに議論を踏まえての原案しか多分できないと思うので。要するに、プレーヤーになる地域住民だとか事業者だとかまちづくりの活性化団体だとか市民団体だとか、商工会議所も含めて、いろんな形で、原案策定するためのご意見をもう少し幅広くもらえるようなプロセスを考えるべきじゃないか。最終的にはやっぱりそれを取りまとめて、市長が責任を持って策定していく方向性を示して、それをまた専門の皆さん方にチェックいただきながらご意見いただいて、最終的に市として決定していくというプロセスが一番いいのかなと思いますけれども、事務局どうですか。

【都市計画課長】

事務局といたしましては、市長が言われたような内容で考えておりました。まだここにそこまで記載するだけの調整がとれておりませんでしたので、資料としてはこういう書き方をさせていただいているんですが、先ほど市長が言われたとおりのやり方でこの先進めることができればと考えております。

以上です。

【大塚委員】

基本的には、審議会でも委員会でも、やり方次第では同じような機能を発揮できると思いますが、審議会というと、どちらかというと何か原案があって、それに対して審議するような形式的な感じがしますが、ここで言っている審議会は、一発勝負じゃなくて、何回か繰り返し途中経過を報告しながら、意見をもらいながら、それで取りまとめていって、最終的にでき上がったものを審議するというイメージでよろしいですね。それであれば特に問題はないかと思います。

【山下市長】

おっしゃるとおりです。

まちづくり推進計画の策定と同じような形で、各分野の代表などを含めて複数回審議会を持つ形です。大塚委員がおっしゃるような形を想定しています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

その他、ご意見等おありになったらお願いします。

【山下市長】

これ、策定方針ということなんですけれども、今の太塚委員との議論もそうなんですけど、そこでも申し上げたんですけど、市が作った計画でといっても難しいんですよ。先ほど太塚委員も答えるの難しいよとおっしゃった、民間の人様の土地に勝手に色を塗るのはなかなか難しいので、どこまで踏み込むかというのはあります。それと、やっぱり実際実行力というものが非常に重要だと思います。2枚目のほうで、左が策定体制、右が推進体制ということになっていますけれども、これはある意味表裏一体なので、先ほども少し申し上げたんですけども、実効性ある計画にするためには、やはりプレーヤーの皆さん方に計画策定段階から関わってもらうことが非常に重要だと思っています。当事者に関わってもらうことが非常に重要だと思っていますので、そういったことを意識してやっていきたいなと思います。

勝手ながら、事務局の説明の中で、地域住民や商工会議所等で組織するというまちづくり協議会というの絵の中に入っていますけれども、議論の中ではやっぱり、例えば活性化のために土地をどうする、空き店舗どうするとかいったときの、事例的には黒壁スクエアとかもそうですが、不動産管理までまちづくり会社を作って手を出していくとかいう事例もあるわけで、どこまで地域でやっていくのかということもやっぱり議論になると思うんですよ。

仮称ですけど中心市街地まちづくり協議会と書いてありますが、協議会がいいのか、どういう組織がいいのかを含めて、やっぱり推進体制でこういった体制が必要だよ、みたいなところは非常に重要だと思うので、ぜひご意見いただきたいです。その上で、またさらに進めるに当たってはいろんな方に声をかけてということになると思うので。

そのあたりはいかがでしょうか。推進体制も含めて、こういう案を今お示ししているんですが、名和委員は商工会議所代表でということで、いかがですか。

【名和委員】

商工会議所は、当然のことながらまちづくりの中心にあるべきだと私は思っております。地元の商工業者、商業もあれば工業もあるわけですよ。そういった企業体の方々はやっぱり地域との関わりというのはよりしていかなきゃいけないという自負もありますし、思いもございますので、ぜひ入れていただいて、今後一緒にやっていくことは重要だと感じております。

あと、併せて言うのであれば、1.の(3)市議会との情報共有とございます。本日も意識のある議員の皆様がオブザーバーとして大挙してお越しいただいておりますけれども、この中に情報共有や報告を行うとありますが、これに対してどのぐらいの影響力があるんでしょうか。

【山下市長】

この会議はシナリオなしでやっているのですが、市長が入った会議をオープンに、シナリオなしでやるというのは、多分全国的に珍しいと思います。かなりチャレンジングな小牧市だと私は思っていますけれども、こんなことをずっとやってきています。

今の話は率直なご意見なんだと思いますが、基本的には市長と議会の二代表の中でやっぱり独

立していますので、計画策定で、例えば計画議決みたいな議論は全国ではいろいろこれまでもあったんですけども、計画にどこまで関わるか。意見をいただきながら、情報交換しながらやっていくという体制はもちろんなんですが、正式にコミットしてしまうと、計画に基づいて予算とか全部出していったら、それは議会も入って作った計画だったら当然認めてきますよねみたいな話になり、結局二元代表の形が一体になってしまいます。基本的には、原則としては執行機関と議決機関ということで分けているということですので、議会の皆さん方の意見は当然しっかりお聞きしながら、議会に認めていただける形じゃないとなかなかこれ予算通ってきませんので、そのあたりバランスの中で処理をしていく形で、多分議員の皆様からも異論はないと思います。よろしくお願いします。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。その他、ご意見ございますか。

【大塚委員】

この「計画の推進」の右側の図ですが、地域住民や地元商店というふうに、地域住民というのが入っているのは大変いいことだと思います。中心市街地活性化基本計画というと、どちらかというと商業中心の計画になりがちですが、そうではなくて、住民、住むというところも念頭に置いている点は大変良いと思います。訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちということで、住みたいまちというのが一つの大きな柱になって、まちづくりの方向性になっているわけですから、そういうふうなことを考えるのであれば、やはり住民サイドの意見も取り入れていくということで、住民を最初に書いてもらっているのはいいことだと思います。

あと、活力があるまちということで、それを実践していくのは商業者になりますが、もちろん商工会議所も中心的に役割を果たしていただく必要があるでしょうし、もう一方、訪れたいまちということになると観光関連の要素も出てくるので、観光関連の事業者にも入っていただくといいのではないかと思います。

以上です。

【名和委員】

先ほど市長から、商工会議所も今後まちづくり協議会にということで、何気なく流しちゃったところがあったんですが、これはこれから作る組織で、委員も重複はあり得るということですね。今日で終わると思ってほっとしていたところでしたが、そういうことなんですね。わかりました。

【山下市長】

どなたにどういう形で会議所から参加いただけるか、会議所サイドのことですのでわかりませんが、当然、これから策定をする段階、それから実行する段階に至るまで、やはり商工会議所にはコミットしていただきたいなと思っております。よろしくお願いします。

【名和委員】

大切だと思います。

【水野ファシリテーター】

その他、ご意見等あればお願いいたします。

【山下市長】

あえて言うことでもないんですけど、少し。

先ほど大塚委員の話の中で、地域住民が入っていることはいいことだ、そのとおりだと思うんですね。策定から実行に至るまで、実際のプレーヤーに参加いただかなきゃいけないでしょということは、先ほど申し上げたとおりでそう思っているんですけども。

ただ、やっぱり1つは、中心市街地ということを考えたときに、逆の面でもう一つ気をつけなきゃいけないかなと思っているのは、そこに住んでいる人たちだけのための中心市街地じゃだめだということです。市全体の中での中心市街地の役割とかあるべき姿というのはやっぱりあると思うんですね。そういう議論の中で考えていかなきゃいけないと思うので、住んでいる人のためのとか、そこで事業している人だけのための、要するに中心市街地のための中心市街地であってはいけないんじゃないかなと、それだけではいけないんじゃないかなということは実は感じるところです。

全体のことを考えると、今そこで住んでいる方、今そこで商売されている方と、もしかしたら全体を見たときには若干異なる意見も出てくるんじゃないかなとも思うので、そのあたりはやっぱりバランスを持って策定して実行していかないとというのが、若干私そう思います。異論があるかもしれませんが。

【大塚委員】

全く異論はないです。中心市街地が何とかなるかならないかというのは、全ては全市的にそういう合意があるかということにかかっています。結局中心市街地のことを中心市街地の人たちだけでやっていても、郊外に住んでいる人たちが中心市街地に何も目を向けてくれないと、中心市街地は活性化しないと思います。中心市街地が活性化するためには、市全体がやはり中心市街地は小牧にとって大事だから、みんなで何とかしていこうと思ってもらえない限り、幾ら中心部だけが頑張っていってもその先は長く続かないと思います。ですから、ぜひそういう全市的な盛り上がりの中でこの計画が作られていくといいと思います。

【山下市長】

大塚委員に言っていたいて本当によかったと思うんですが、私はもともと中心市街地の商店街の生まれですので、「市長、地元だから一生懸命やっているのか」って言われる人もいるかもしれませんが、決してそうではなくて、やっぱり小牧全体の中で考えたときの中心市街地の役割というのがあって、ここはかなり衰退してきているので、小牧全体のためにやっぱり必要だと。やっぱり中心市街地規模というのはまちの中心、その活力というのは絶対に必要だと思っているので、全市のためにやっぱりこれはあるべき形を全市的に作っていかなきゃいけないということだと思っています。市全体と中心市街地のあり方を一緒に、大塚委員にまさにそういうご意見をいただいて大変心強いなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

その他、委員の皆様からご意見等ございますか。

【鶴田委員】

今のお話と関連して、私もそのとおりだと思いますが、恐らくそれは都市計画マスタープラン、あるいは立地適正化計画の方できっちり書かれていると思うので、資料4の2とか3のところにそういうことも少し書かれるといいのかなと思います。そうすると見る方は、このエリアは全市で見たらこういう位置づけなんだなというのが再確認できるので、追記されたらどうかなと思いました。

【山下市長】

そうですね。ありがとうございます。

先ほど大塚委員から、施策の関連性、ストーリーみたいな話があったと思うんですけど、まさに逆に中心市街地と全体、市域全体との関係性というようなこともやっぱりちょっと記載したほうがいいかなということだと、今ご意見伺ってそうだなと思います。中心市街地の現状と特性とか、中心市街地のことは書いてあるんですけど、全体の関係性というのが、もう少し確かに追記したほうがいいかなと思います。ありがとうございます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

その他、委員の皆様方からご意見等ありましたらお願いします。

それでは、ほかに特にご意見がなければ、議題（3）の中心市街地グランドデザイン策定方針（案）については、今日委員の皆様からいろいろご意見いただいたことを一部修正しました上でおおむね資料4のとおりとすることで、この戦略会議としては了承してよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

皆様、異議なしということでございますので、本会議として了承することとさせていただきます。

続きまして、議題（4）その他を議題といたします。初めに、事務局から何かございますか。

【都市計画課長】

事務局からは特にございませんけれども、これまで第4回まで、委員の皆様方におかれましては、会議のご参加ありがとうございました。

以上でございます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

以上で本日の議題につきましては終了することとなりますが、最後に市長から一言お願いいたします。

ます。

【山下市長】

皆さん、いろいろと言いつ足りないことがあるんじゃないかなと思いつながら最後聞いていたんですけれども、一応戦略会議としては今日が最終ということでございますので、少しまとめさせていただきました。いただいたご意見をもとに修正いたしまして、方針としてお示しをした上で、これからまさに策定をしていくということでもありますので、またその段階で、引き続き委員の皆様方には具体的にいろんなご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。

まずもって、4回の戦略会議ということで、お力添えいただきましたことに改めて感謝を申し上げ、引き続き、そういったことでお力添えいただきますようお願い申し上げて、御礼とさせていただきますと思います。

ありがとうございました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

その他、委員の皆さんから何かございますか。よろしいですか。

なければ、以上で終了とさせていただきます。

円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。

事務局に進行をお返しいたします。お願いします。

【都市政策部長】

長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。

本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆様にご確認いただいた上で、市のホームページなどで公開してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして第4回中心市街地グランドデザイン戦略会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。